

広葉樹苗木5000本植樹

海山区
矢口浦で イオン環境活動560人

イオン環境財団(岡田卓也理事長、本部・千葉市)の第3回「イオンの森植樹活動」が6日、海山区矢口浦の県営大白公園一帯であり、参加者560人が町有林跡など約4千平

方畝に広葉樹の苗木約5千本を植えた。紀北町では3年目で最終回となる。樹種はクスノキやアラカシ、ヤマザクラ、ヤブツバキなど広葉樹28種類。県内のイオングループ社員と家族、各店の環境教育活動に所属する小学生など460人、紀北町と尾鷲市から100人の計560人が参加。

岡田理事長(89)が「皆さんが植えた苗木がすくすくと成長し、豊かな緑となり、子どもたちの未来に良い環境が続いていくことを祈っている」とあいさつし、尾上壽一町長は「皆さんが植えた苗木をしっかりと見守るので、今後もぜひ紀北町

を訪れてほしい」と呼び掛けた。

次女(2)と参加した名古屋市の男性(39)は「紀北町は自然豊かでいい町。環境を守る植樹には関心があり、今後の活動にも参加していきたい」と話していた。

植樹の後は、女性会議きほくが調理したアオサ汁の振る舞いもあった。

同財団は1990年の設立から環境保全の一環で国内外で植樹を続けている。同町では一昨年に海山区便ノ山の紀勢自動車道馬越トンネル周辺の国有地約4千平方畝と鷲下の国道42号沿いの県有地「鷲下公園」約3千平方畝で5千本。昨年は海山区便ノ山の魚跳溪沿いの町有林跡に約5千本を植えた。



苗木を植える家族連れ(6日、紀北町海山区矢口浦で)

2014年12月9日 南海日